

研究課題名	日本人NAFLDおよびCKDの疫学に関する多施設共同後ろ向き観察研究
研究の意義・目的	ウイルス性肝疾患は経口剤により治癒・寛解を得られるようになりました。一方、生活習慣病に関連した脂肪性肝炎の増加もあり、肝疾患原因の状況は変わりつつあります。健診受診者の約25%に肝機能異常を認め、肝機能異常の多くは生活習慣病に関連する脂肪肝が原因と考えられますが、その特徴や他の生活習慣病との関連性に関する詳細な報告は少ないのが現状です。特に肝臓における慢性腎臓病との関連についての報告はなく、日本の人間ドックにおける肝疾患の最新の実態調査という点で、今後の肝疾患診療に貢献し得る大変有意義な研究と考えています。
研究を行う期間	承認後（西暦）～ 2023年12月31日
研究対象者の範囲	2014年4月1日～2018年3月31日に公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根で健診を受診された方が対象です。
お願いする内容	受診された際の健診データから以下の情報を収集し、使用します。収集した情報は、個人情報を取り除いた状態で研究の代表施設である大阪市立大学医学部附属病院へ提供します。各研究機関から収集された情報を用いて、研究グループが解析・検討を行います。 使用させて頂くデータは身長、体重、既往歴、常用薬などの背景因子や、血液生化学データ、腹部エコー等の生理学検査所見などの健診結果に記載されているデータです（観察研究）。脂肪肝の有無および生活習慣病関連項目を比較検討し、脂肪肝発生の危険因子を探索します。また、肝疾患の発見率や肝臓の線維化進展度、慢性腎疾患の頻度等に関する実態調査を行います。
頂いた試料・情報の提供方法	公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根から共同研究の代表施設である大阪市立大学附属病院への提供を行います。
頂いた試料・情報の管理について責任者	公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根・医師・飛田博史 大阪市立大学医学部附属病院 先端予防医療学・講師・藤井英樹
この研究を行っている施設（共同研究機関）	この研究は下記のとおり 11施設で実施予定です。 研究代表者 大阪市立大学医学部附属病院先端予防医療学・講師・藤井英樹 共同研究機関 神奈川歯科大学附属横浜クリニック・内科医師・結束貴臣 川崎医科大学総合医療センター・准教授・川中美和 新潟大学大学院消化器内科学分野・教授・寺井崇二 JA広島総合病院・消化器内科部長・兵庫秀幸 公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根・医師・飛田博史 香川大学医学部消化器内科・教授・正木勉 佐賀県健康づくり財団・医師・川口巧 江口病院臨床消化器内科・理事長補佐・江口有一郎 奈良県立医科大学消化器内科学講座・教授・吉治仁志 山梨大学第1内科・助教・鈴木雄一郎
代表施設のURL	http://www.medcity21.jp/clinic/clinicalresearch.shtml
研究の成果を公表する方法	学会や医学専門誌で発表します。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への参加を拒否できます。また、研究への参加を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根 研究責任者 飛田 博史 Tel: 0853-20-0649